

「侵略者アルゼンチンアリと人間の拭えぬ大罪」

皆さんはアルゼンチンアリを見たことがありますか。

外国のアリだし、見たことあるわけじゃないか。という人が多いのかもしれませんが。

しかし、彼らは意外と近くに存在しうる危険性を秘めています。

なぜなら、彼らは原産地以外の地の生態系を破壊する存在である、特定外来種に指定されているからです。

そして、今現在もこの日本に着々と侵攻しています。

これは日本という国にとって非常に恐ろしいことです。

こう言うと、何が恐ろしいんだ？と思われることでしょう。たかが、アリが来ただけでは
ないか、と。

しかし、彼らは前述した通り、生態系を破壊する存在です。

現実味を帯びさせる例として、いくつか危険視されている行動を挙げると、

- ・ 在来のアリの住処を奪い、別の場所に追いやる。
- ・ 土から出てきた幼虫を食い散らし、セミやカブトムシなどのアリ以外の昆虫の個体数をも減少させる。
- ・ 在来アリとは違い大きなコロニーを作るため、広域的に勢力を拡大させる。

などがあります。

アリについては現実味がわからないかもしれませんが、セミやカブトムシといえば日本の夏の風物詩です。それをも食い散らすアルゼンチンアリがどれだけ危険か少しでもわかって頂けたでしょうか。

また、逆になんてひどい奴らなんだと憤慨する人もいるかもしれません。

そういう方々の気持ちはわかります。何しろ侵略されているのですから。

しかし、肝に銘じてほしいのは、アルゼンチンアリを南米から連れてきたのは人間だということ
です。

人が連れてきたのにも関わらず、害虫だ。悪い奴だ。と騒ぎ立てるのはお門違いだとも思
えます。

そんな、アルゼンチンアリのことを僕は、部活動として2年前から調べ始めました。最初は前述のことなどまるで知らず、流れでやっていた節がありました。しかし、調べていくにつれ、アリという存在の大きさや、人の横暴ともいえる行為がわかり、興味が湧いてきました。

調べてみると、今までに外国から日本へアルゼンチンアリが侵入した回数は全部で、知られている限りで、4回でした。

その侵入先は広島、神戸A、神戸B、神戸Cと称される場所です。(下図参照)

これらの4つの地点には、別々のコロニーが存在しており、コロニー同士は敵対関係にあります。また、その4つの地点は、同時に物流が盛んな地でもあります。特に、材木などは、中にアリが存在している可能性もあり、現に、それぞれの地ではそれを扱う工場がありました。正確な理由を把握するのは、タイムマシンでもない限り不可能ですが、材木という共通点はこれからの研究のキーワードになりそうです。

そして、その共通点に気づいた僕は、複雑な気持ちになりました。

なぜなら、これは皮肉にも人間の発展のためにアルゼンチンアリが巻き込まれたという形になってしまうからです。

人間の歴史が、いつも正しかったかと言われれば勿論そうではないですが、小さな命の運命を、発展の中の過程で、予期していなかったとしても、ここまで狂わせてしまったとは非常にショックでした。

更に、そのことについて、思考を膨らますと、原発事故に巻き込まれた生物、地球温暖化に苦しむ生物も、アルゼンチンアリ同様に被害者だと感じられ、申し訳なくすら思えます。

また、港のない内陸県である、我が岐阜県においても、上記の神戸Bコロニーに属しているアルゼンチンアリが侵入していることが分かっており、とどのつまり、トラックなどにもくっついて来たりするため、どうとでも移動が可能ということです。侵略された公園や森や、道路には、アリ用殺虫剤をまくなどの処置がとられています。

上記の事柄を踏まえ、それでも、僕はこれからも、アルゼンチンアリの分布はもっと広がっていくと思います。日本の経済活動がストップしてしまわない限りずっとです。

そして、やってきたアルゼンチンアリを在来種保持のため殺してしまうのは、悲しいですが、しょうがないことです。

しかし、彼らが来てしまったことは、人間にも大きく責任があることを出来るだけたくさんの人に、重々に承知してもらいたいです。

そして、生物を慈しむ心を持つと、説教をするわけではありませんが、人間の歩いた足跡の裏に、作り出された小さな侵略者がいることを、胸の内にそっと留めて頂ければ幸いです。



広島のコロニー、ジャパニーズメインと神戸ABCコロニーの模式的な図

(参考文献)

- 1) 田付貞洋/編：アルゼンチンアリ，東京大学出版協会，東京(2014)
- 2) アルゼンチンアリ防除の手引き：環境省自然環境局野生生物課外来生物対策室(2013)
- 3) 日本産アリ類データベースグループ：日本産アリ類全種図鑑，学習研究社，東京(2003)
- 4) 砂村栄力：侵略的外来種アルゼンチンアリの社会構造解析および合成道するベフェロモンを利用した防除に関する研究(2011)．東京大学学位論文．
- 5) 白地図の引用元

<http://map.yahoo.co.jp/maps?lat=35.39122645&lon=136.72229033&ac=21&az=&z=10&fa=pa&ei=utf8&p=%E5%B2%90%E9%98%9C%E7%9C%8C>